

沖縄県平和祈念資料館展示更新監修委員会（第1回）議事概要

- 1 開催日時：令和6年6月13日（木）14:00～15:46
- 2 開催場所：平和祈念資料館 2階大会議室
- 3 出席委員：吉浜忍、瀬戸隆博、古賀徳子、宮城晴美、謝花直美、鳥山淳、里井洋一、新城俊昭、山城彰子、石堂徳一、宮良純一郎、山口剛史、林博史（オンライン）
- 4 議題等
 - (1) 会長等の選任について
 - (2) 今後の委員会の進め方（会議の公開・非公開の審議）
 - (3) 沖縄県平和祈念資料館展示更新に向けた考え方（案）について [資料3]
 - (4) 令和6年度事業計画（案）について [資料4]
 - (5) 沖縄県平和祈念資料館 館内視察
- 5 議事等
 - (1) 会長等の選任について
会長に吉浜忍委員、副会長に宮城晴美委員が互選された。
会長から指名された各部会長は、次のとおり。
 - ① 戦前・戦中時代：林博史委員
 - ② 戦後時代：宮城晴美委員
 - ③ 平和の発信・学習：里井洋一委員
 - ④ 八重山平和祈念館：石堂徳一委員
 - (2) 今後の委員会の進め方（会議の公開・非公開の審議）
 - ア 事務局案の説明を行った。
 - ・ 忌憚のない自由闊達なご意見をいただくため、公正かつ円滑な議論が行える場を確保したい。また、検討段階の不十分な情報の公開により、県民に誤解や憶測を生じさせる可能性もあることから、委員会や部会そのものは公開せず、監修委員会の議事概要についてはその都度公開していく。
 - イ 委員から次のような発言があった。
 - ・ 公開することによって、より多くの人たちからリニューアルに関して意見を述べてもらう場所を設け、皆で考えていきたい。
 - ・ 事務局の考えは、委員の思想信条を守るための非公開ということだと思うが、前回の「展示変更問題」は、行政側が公開しないで進めていった結果であり、今回は基本的には公開、ただ全面公開というよりも場合によっては非公開もあり得る。

- ・「展示変更問題」は、情報が公開されなかったことが問題だった。だから当時より随時オープン、透明性を図り、県民と協働で取り組むというメッセージを打ち出してもらいたい。
- ・会議の内容は全て記録すべきである。議事等は、発言者に確認した上でHPに掲載されるので、実際の会議（部会）の公開は少し気になる。発言や議論が非常にやりづらいのではないか。
- ・部会の議論で確認されたことは監修委員会の議事に上がってくるので監修委員会の議事等は随時公開して、どういった議論をしているか公開すべきである。
- ・県民は前回の「展示変更問題」のようなことが、例えば知事が変わったら起こるのではないかなどを心配していると思う。委員会で決めたことを中間報告して、県民に意見を求めることや、知事が変わったとしても、決めた事を守るという姿勢を伝えていく事が大事である。
- ・部会に委員ではない人がいて、委員が大胆な発言をして、それはダメだとなった時に、非難される心配があるので話しづらいとは感じる。
- ・県民等の意見をどう反映させていくか、参画している雰囲気はどうつくるかが重要である。そのためには公開の度合いを強くしていく。
- ・会議の公開と県民の参画によってリニューアルが行われることは、整理して考える必要があるのではないか。できる限り部会の中で当事者や関わりのある人たちと協働でリニューアルの方向性を決めていくことが大事だと思う。
- ・県民に対して、節目の監修委員会は公開してタイムリーに知らせることは、前回の「展示変更問題」の教訓を生かすという意味では必要ではないかと考えている。
- ・委員会、部会について、一律にルールを決めることは難しい。公開というより、関心がある方に積極的に発信することが重要である。
- ・非公開にした場合、不信感がわいてくる。基本的に公開して、県民の参画や理解を得ていくことが良いと考えている。

・公開したことで、誹謗中傷を受けることもある。その場合の対応は別の問題と考えている。

・部会において、多くの知恵、意見が欲しいとなった場合には、予算を伴わない形で工夫して、外部の意見を聞く場を設けさせて欲しい。

ウ 審議結果は次のとおり。

【会議の公開】

- 今回の監修委員会は、公開。
- 次回以降の監修委員会及び部会は、公開しない。但し、基本構想等がある程度整理できた節目となる監修委員会は公開。

【議事等の公開】

- 監修委員会の議事概要は、その都度公開。

【その他】

- 予算をかけずに、部会を拡大的（委員以外の意見を取り入れること）に実施することは、部会の判断に任せる。

(3) 沖縄県平和祈念資料館展示更新に向けた考え方（案）について

(4) 令和6年度事業計画（案）について

ア 事務局が〔資料3〕、〔資料4〕に基づき一括して説明を行った。

イ 委員からは以下のような質問があった。

（質問1）各部会の主な検討範囲について確認したい。

（回答1）① 戦前・戦中時代は、常設展示（2階）第1室から第4室。

② 戦後時代は、常設展示（2階）第5室。

③ 平和の発信・学習は、子ども・プロセス展示室（1階）。

④ 八重山平和祈念館は、八重山平和記念館展示室。

（質問2）「総合案内」（冊子）は更新するのか。その場合、冊子にするか、あるいはデジタル化も考えているか。

（回答2）冊子の更新も検討したい。HP更新も必要と考えている。

(5) 沖縄県平和祈念資料館 館内視察

各委員、事務局職員の案内のもと館内視察を行い、現行展示の内容を確認した。

令和6年7月17日

知事公室 平和祈念資料館

基本情報

沖縄県平和祈念資料館（本館）

戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人々に「沖縄のこころ」を発信し、もって恒久平和の樹立に寄与する施設として設立された。

- 1975（昭和50）年 沖縄県立平和祈念資料館（旧資料館）開館
- 2000（平成12）年 沖縄県平和祈念資料館（現資料館）移転改築（25年目）
（延べ面積が10倍、展示面積が約5倍に拡大）約73億円

八重山平和祈念館（分館）

「戦争マラリア」の実相を、後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」の形成を目指すことを理念に設立された。

- 1995（平成7）年 マラリア慰藉事業費3億円（慰霊碑、祈念館、資料収集・編纂、追悼式典）
- 1999（平成11）年 八重山平和祈念館開館（26年目）

取組の背景

戦後80年を前に、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館、ひめゆり平和祈念資料館など、県内外の平和博物館においては、戦禍の記憶を風化させず、次世代に継承するため、展示リニューアルに取り組んでいる。

本県においても、戦争体験者が約1割未満となり、戦争体験者なき時代に向かう現在は、大きな分岐点にさしかかっており、近年の若者にとって、沖縄戦は遠い過去の歴史になりつつある。沖縄戦の実相と教訓を伝える平和発信拠点施設として、次世代に向け、自分事として、我が身に置き換える「共感力」や、「危機感」をどう引き出せるかが大きな課題となっている。

パレスチナ自治区ガザにおける紛争や、ロシアによるウクライナ侵攻、台湾有事の懸念など国際情勢が不安定な昨今においては、沖縄戦から時間が経過するほどに、平和発信拠点施設としての役割はますます重要になっている。

これらの課題に対応し、世界の恒久平和の実現に寄与するためには、リニューアルを通して、沖縄戦の記憶を風化させず、未来の若者達の心に響く展示内容について、模索し、より一層、発信力のある平和祈念資料館及び八重山平和祈念館に生まれ変わる必要がある。



基本構想



現状と課題

沖縄県平和祈念資料館（本館）は、2000（平成12）年に開館し、今年で25年目を迎えており、時代に即した展示内容の更新の必要性に加え、映像機器等の故障、パネルの老朽化、施設の有効活用など課題を有しているものの、開館後、展示内容の更新等（リニューアル）を行えていない。

また、開館後に刊行された沖縄県史等の記述を踏まえた、2階常設展示室の展示説明文の見直しや、1998年以降の事件・事故などの歴史的事実の追加、1階子ども・プロセス展示室の展示更新、スペースの有効活用などの検討が必要となっている。

さらに、八重山平和祈念館（分館）も、1999（平成11）年に開館し、26年目を迎え、展示物の老朽化のほか、本館のように、戦争に巻き込まれる経緯や、戦後復興に関する展示等の追加が必要になっている。

基本方針

- (1) 設立の理念及び趣旨に沿ったリニューアルとする
- (2) 平和について学習する場の充実を目指したリニューアルとする
- (3) 多様な来観者に配慮したリニューアルとする

主なリニューアル検討箇所

- (1) 平和祈念資料館（2階：常設展示室）
 - 開館後に刊行された沖縄県史（沖縄戦）等の記述を踏まえた、説明文の見直し
 - 1998年以降の事件・事故などの歴史的事実の追加
 - 障害のある方等多様な来館者への配慮（展示ケースを見やすいように配置等）
 - 証言本や証言映像機器の更新
 - VR（Virtual Reality）やアプリによる案内等、IT技術の導入
 - 老朽化したキャプション及び展示物の更新
- (2) 平和祈念資料館（1階：子ども・プロセス展示室・情報ライブラリー）
 - 多目的スペースの拡充（企画展や交流の場として活用）
 - 世界で起こっている時事問題等、時代に即した展示内容の見直し
 - 展示方法の見直し（サイネージなど可変型展示の導入）
 - 多様な来館者のニーズに対応した空間づくり
 - 証言映像機器の更新
 - ライブラリー機能の充実（図書の実等）
- (3) 八重山平和祈念館
 - 老朽化したキャプション及び展示物の更新
 - 戦争に至る（巻き込まれる）までの経緯等の追加
 - 八重山地域の戦後復興に関する展示を追加



令和6年度事業計画(案)

